

令和7年度青森県伝統工芸品指定製造者の概要

「善知鳥彫ダルマ研究会 2.5」

青森市

善知鳥彫ダルマ唯一の製造者だった福井強氏死去後、100年以上の歴史を持つ善知鳥彫ダルマを継承するため、有志が「善知鳥彫ダルマ研究会 2.5」を設立。

「善知鳥彫ダルマを世界に発信プロジェクト」として展示会の開催や、絵付け体験などの普及活動を行ってきた。

伝統的な技法による善知鳥彫ダルマのほか、より多くの人に親しんでもらおうと新しいデザインの善知鳥彫ダルマやコラボ商品の製造を開始。

青森市内にある研究会の事務所は善知鳥彫ダルマ資料館として整備され、初代今克己氏と先代福井強氏の作品を多数展示し、善知鳥彫ダルマの歴史を学ぶことができるようになっている。(研究会名にある「2.5」は、2代目福井強氏から3代目となる製造者の育成に向けて、研究会が架け橋となるという意味が込められている。)

今後は、善知鳥彫ダルマの魅力を後世に伝えるため、インバウンド需要を見据えた商品開発・販売や、伝統を普及するための展覧会に取り組んでいく。

(参考)

「善知鳥彫ダルマ」

善知鳥彫ダルマは青森県の文化振興に功績のあった今克己が県の工芸品振興のために大正10年ごろより取り組んだのが始まりである。ロダンの作品からヒントを得たという、深紅の衣に包まれた痩身のダルマが前方を見据えるという独特な風貌は、悟りを開き座禅から立ち上がって前に足を踏み出そうとする姿を表現している。

名前はその昔青森県にいた「善知鳥」という鳥にちなんで名付けられた。樹木の自然な割れを最大限に生かしたそのダルマは、一つとして同じものがない。

【主な製造工程】原木の切断→割り裂き→陰干し→木取り→彫り→色付け

→完成

【主な製品】善知鳥彫ダルマ

【製造者】 善知鳥彫ダルマ研究会 2.5 (青森市)

